

登録コード	A3595419	開講年度	2026					
授業科目	専攻研究Ⅱ					担当教員	小西 博昭	
英文授業名	Thesis ResearchⅡ							
単位数	5	講義期間	前期（随時）	曜日・時限	集中・不定期	対象学生		
講義室				授業形態	演習	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	非該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】		
	2022Aカリ，2021Aカリ，2020Aカリ，2019Aカリ							
	【2022年度以前カリウム対象】専門的な知識や研究能力を修得している				⇔	遺伝子の実践的な扱いを理解する。		
	【2022年度以前カリウム対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って問題をとらえ解決する能力を修得している				⇔	タンパク質の実践的な扱いを理解する。		
	2026A3編（24A），2025A3編（23A），2024Aカリ，2023Aカリ							
	【2024年度以前カリウム対象】専門的な知識や研究能力を基礎としての確かな情報を収集・理解し、発信できる能力を修得している。				⇔	培養細胞の実践的な扱いを理解する。		
	【2024年度以前カリウム対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って様々な課題をとらえ、解決する能力を修得している。				⇔	実験動物（マウス）の実践的な扱いを理解する。		
(2)授業で学べる「テーマ」	健康長寿							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	高等真核生物（特にヒト）の細胞情報伝達機構を明らかにしてきた実験内容及びその実験方法を理解する。理解した方法について、当研究室で研究テーマにしている遺伝子、タンパク質について応用する。専攻研究Ⅰの結果をふまえ、それを発展させる。							
(5)授業計画	1. 高等真核生物（特にヒト）の細胞情報伝達機構に関する実験技術を理解する 2. 高等真核生物（特にヒト）の細胞情報伝達機構に関する実験技術を実践する 3. 高等真核生物（特にヒト）の細胞情報伝達機構に関する実験技術を自分の研究テーマに応用する 4. 自分の出した実験データについて考察し、実験方法を改良し再考する。 5. 授業アンケート							
(6)自主学習の指針	当研究室で発表した論文について理解しておく							
(7)成績評価の基準	日常の研究室での態度等で評価する。 許容レベルであれば60点以上、標準的達成レベルにあれば80点以上、理想的達成レベルにあれば90点以上とする。							
(8)事前事後学習の内容	特になし							
(9)テストやレポートの予定	心身ともに健康であること							
(10)成績評価の方法	対面、メールいずれも可							
(11)質問、相談への対応および連絡先	随時対応します							
(12)履修上の注意	なし							
【教科書】	特になし							
【参考書】	これまで当研究室で発表してきた論文など							